

はじめに

今回のあかし作品集『百花繚乱』は、二〇一〇年からスタートした並列四字熟語をタイトルに冠したシリーズの第五巻目です。過去に『花鳥風月』、『喜怒哀楽』、『春夏秋冬』、『山川草木』の四冊が生み出されました。

『百花繚乱』には、「それぞれのミニ自分史」という副題がついています。これこそが今回の大きなポイントです。自分史と百花繚乱との関係は以下のようなことです。

私たち執筆者は日ごろから「あかし文章」に取り組んでいる同志たちです。

人生のある時に、イエス・キリストに出会い、救われ、恵みによって現在まで生かされてきた者たちです。私たちは「神の庭園に咲く百花の一輪」であるとの理解のもとに、いただいた恵みを感謝と喜びをもって刻銘に書き綴りました。ここには、ある人は五〇年の、あるいは九〇年近くの歳月が凝縮されています。二年をかけて、一コマ一コマを持ち寄って合評し合い、書き溜めてきました。

この二年の間に、配偶者を天に送った兄弟がおられます。思わぬ病を得た方もおられます。多くの方が老いの弱さを身に染みて感じています。

この自分史は過去のお話ではありません。今現在のホットな証しです。読んでくださる方の心に一筋のキリストの光をお届けできたらこれに勝る幸いはありません。

二〇一九年初夏 日本クリスチャン・ペンクラブ代表 三浦喜代子